訪日外国人旅行者数２０００万人の受入に向けた東北ブロック連絡会　最終取りまとめ概要

○　訪日外国人旅行者数は、2,000万人という目標達成が視野に入ってきた。また、東北においては、外国人延べ宿泊者数が東日本大震災前の平成22年とほぼ同水準まで回復しているところ。

○　この流れをより確かなものとすべく、訪日外国人旅行者拡大への取り組みを更に進めていくとともに、円滑な受け入れができるよう、現状と課題をしっかり把握し、必要な手立てを迅速に講じていかなければならない。

○　東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局や東北6県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた東北ブロック連絡会」を平成27年3月に設置。今般、外国人旅行者数の拡大や受入環境整備ついて、今後の方針等のとりまとめを行った。

「現状・課題」「今後の方針」（抜粋）

無料公衆無線LANの環境整備

〔現状・課題〕

◆整備に要する費用が課題。また、仕組みについて理解されていない。

◆整備されていても外国人旅行者用の案内・説明がない所もある。

〔今後の方針〕

◆東北管内で行われている補助制度や取組事例を紹介することにより、無料公衆無線LANの有用性を示し、導入を促進する。

◆共通シンボルマークである「Japan Free Wi-Fi」の表示や利用方法の整備により、外国人旅行者が利用しやすい環境を整備する。

多言語対応

〔現状・課題〕

◆外国人旅行者が少ないため、必要性を感じない。また、対応方法や費用対効果が課題。

◆観光地等への案内標識が「ローマ字」表記となっている。

〔今後の方針〕

◆補助制度や取組事例の紹介、観光庁ガイドライン等に沿った取り組みを促進することで、多言語化の取り組みを促進する。

◆主要な観光地等の案内標識を「ローマ字」表記から、外国人に分かりやすい「英語」表記への改善を推進していく。

主要観光地

〔現状・課題〕

◆東北の夏祭り期間中は混雑しており、宿泊施設の予約が取りづらい。そのため、海外からのツアーは限られている状況。

◆面積が広域で観光地が点在する東北において、域内移動の利便性向上が課題。

〔今後の方針〕

◆日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部において一定の宿泊数インバウンド用に確保し、海外エージェント（台湾）に販売した。今後も取り組みを拡大する方向で調整。

◆インバウンド向けに、JRにおいてエリアを絞ったフリーパスの販売、高速バスフリーパスやレンタカーでの東北周遊の促進などの検討を行う。

主な取組事例

○Wi-Fiの整備（仙台市）

仙台市内において、アーケード商店街全エリア、Sーpal仙台本館（仙台駅直結の商業施設）、仙台城跡及び市内観光周遊バス「るーぷる」にフリーWi-Fiを導入。面的に整備を行うことで、旅行満足度を飛躍的に高める取り組みを実施。

○多言語対応（会津若松市）

「音声ガイドシール」と「多言語音声ガイドペン」を活用し、鶴ヶ城（史跡・若松城）を核とした地域資源の情報を4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）で発信する。
（H27.10.1～11.30　実証実験）

○東北夏祭りにおけるｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ宿泊枠の確保

日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部が連携し、一定の宿泊数をインバウンド用に確保し、海外のエージェントに販売。

【送客実績】

・台湾旅行会社6社によるツアー12本（新庄祭り3本含）催行。

・84名参加284人泊

「今後の進め方」

基本的考え方

○ 東北の空港への直行便や乗り継ぎ便を活用する視点と、東京や北海道から一足伸ばしてもらうという視点のもと、東北ブランドを意識し、東北が一体となった取り組みを行う。

○ 海外直行便の新設や既存路線の増設、大型クルーズ船の寄港の増加、鉄道・高速バス・レンタカー等による周遊の利便性向上等による旅行者数の拡大を目指す。

○ 受入環境整備については、ニーズの高い「無料公衆無線LANの環境整備」や「多言語対応」について、広域観光周遊ルートの形成も踏まえ、東北全体として戦略的に取り組む。

継続的検討事項

1. 海外直行便の新設、既存路線の増設
2. 鉄道や高速バス、レンタカー等による東北の周遊促進
3. 大型クルーズ船の寄港の増加と受入環境整備
4. 広域観光周遊ルートの形成に合わせた受入環境整備
5. 無料公衆無線LANの環境整備
6. 多言語対応の強化